

※令和6年度実績追加：赤字表記

第1期八戸市美術館中期評価報告書

令和7年3月



八戸市美術館
Hachinohe Art Museum

目次

1 はじめに	… 2 ページ
2 今回の評価方針について	… 3 ページ
3 当館のこれまでの活動概要	… 5 ページ
4 事業計画の評価	… 18 ページ
5 主要な活動の評価	… 21 ページ
6 その他の活動の評価	… 38 ページ
7 総合評価と今後の展望	… 43 ページ
8 おわりに	… 48 ページ

1 はじめに

八戸市美術館は、「種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館 ～出会いと学びのアートファーム～」をビジョンに掲げ、令和3年11月3日にリニューアルオープンしました。従来の「美術品の展示・調査研究・収集保存」にとどまらず、感性を高め合う“共育”の場を提供する「アートの学び」と、観光や福祉、地域コミュニティなど様々な分野を横断した総合的な文化政策を担う「アートのまちづくり」を加えた、新しい形の美術館を目指しています。

令和2年3月に策定した八戸市新美術館中期運営計画では、戦略目標を「『アートの学び』を提供する美術館としてのアイデンティティ確立と地域の牽引」と掲げ、計画期間内に達成すべきミッションとして、①アートを通じた学びの拠点づくり、②新たな活動や価値が生まれる土壌づくり、③クリエイティブ人材が集まる環境づくり、としています。この3つのミッションを達成するために、創意工夫を凝らした展覧会の開催のほか、市民やアーティストによる地域資源を活用したプロジェクト、当館の特徴であるジャイアントルームを活用した事業などを実施してきました。

開館当初は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館や人数制限を実施するなど、活動を中止・縮小せざるを得ない状況もありましたが、令和4年度と令和5年度は当初見込んでいた年間入館者数の9万人を達成することができました。

なお、当初の中期運営計画の計画期間は令和2年度から令和5年度としていましたが、美術館整備工事の進捗や新型コロナウイルスの影響を考慮したことにより、計画策定時の想定からオープン時期が約半年遅れたことや、3年目の実績を反映した上で評価をするために、計画期間の終期を令和6年度へ変更しています。

中期運営計画では、美術館の活動を評価するにあたって入館者数や収支だけでなく、アートを通じて市民や地域にどのような機会や価値を提供し、地域での役割をどの程度果たせたかを、人員や予算、実施した事業内容、成果の関係性を明確にしながら評価を行うことにしています。

本報告書では、令和3年度から令和6年度までの活動を振り返り、その成果と課題を評価して、次期中期運営計画の策定や美術館運営の改善に役立てることを目指しています。

八戸市美術館
館長 佐藤 慎也

2 今回の評価方針について

八戸市新美術館中期運営計画(令和3年度～令和6年度)に基づく中期評価は、令和7年度を開始年度とする次期中期運営計画策定に向けて、令和3年度から令和5年度までに実施した事業を対象として実施した。なお、計画期間の最終年度である令和6年度の事業実績については、令和7年度に評価を行い、改めて評価結果を取りまとめた。

今回、評価を行うにあたり、文化政策・アートマネジメント研究を専門としている中村美亜氏(九州大学大学院芸術工学研究院 教授)に評価アドバイザーを依頼し、助言を受けた。

評価の実施にあたって、以下の点が確認され、課題として示された。

a. アウトプット(活動の結果)

中期運営計画に記載のある「新美術館の目標達成に向けて、どれだけの人員と予算を投資して、どのような事業を行い、どのような成果を生み出したのかという関係性を明確にしながら、利用者数やプログラム実施数などの数値で表しやすい評価指標」を用いて評価するという箇所については、恒常的にデータを蓄積し、年次報告書などの作成により事業実績を整理していることから、評価に必要なリソースは十分整理されていることが確認された。

b. アウトカム(市民や社会の変化)

一方で、中期運営計画に記載のある「事業に参加した人の変化や新たに生み出されたものなどの数値で表しにくい事柄の評価指標を用いて、美術館全体の評価を行う」をどのように実施するかを検討する必要がある。特に八戸市美術館のユニークなプロジェクト型の活動を評価する方法を検討する必要がある。

c. 次期中期運営計画

加えて、次期の中期運営計画を策定するためには、実際に美術館を3年間運営した経験を踏まえて、当初の中期運営計画の内容を検証する必要がある。

以上を踏まえ、今回は次のようなステップで評価を実施することとした。

(1) アウトカムの予備的検討

「事業に参加した人の変化や新たに生み出されたものなどの数値で表しにくい事柄の評価指標」を見つけるためには、まず美術館の活動によって、どのような変化があったのかを知る必要がある。そこで各スタッフに対して、ワークショップの事前課題として、自分が関わった活動のそれぞれについて、どのような変化が①その場で生じたか、②現在生じつつあるか、③将来生じると考えられるかについて回答を求める。

これらの回答は、美術館の活動から生まれるアウトカムの「仮説」に過ぎないが、これを裏付ける定量的もしくは定性的エビデンスが提供されれば、アウトカムが立証されたこととなる。また、

今回見出された直接アウトカムをもとに指標を作成することで、次回以降、八戸市美術館にユニークな価値を恒常的に測定することも可能になる。

(2) 事業計画の評価(18 ページ)

中期運営計画の戦略目標が、ビジョンの実現に向けて妥当なものかどうかを評価するために、リニューアルオープン前に策定した中期運営計画に基づくロジックモデル(事業が成果を生み出すまでの論理的因果関係を示した図)と、ワークショップにおいて3年間の事業活動を踏まえてスタッフが作成したロジックモデルを比較して、中期運営計画の妥当性をセオリー評価する。

手順としては、まずワークショップにおいて、スタッフがこれまで何に尽力してきたか、何を目指してきたかを振り返りながらロジックモデルを作成することで、八戸市美術館の活動の全体像を俯瞰的に捉える。その上で、中期運営計画に当初描かれたロジックモデルと比較することで、成果が多く出たところ、成果が乏しいところなどを浮き彫りにする。この比較結果は、活動の達成度を可視化すると同時に、中期運営計画の妥当性を評価することにもつながり、次期中期運営計画の策定にも有益な示唆を提供する。

(3) 主要な活動の評価(21 ページ)

八戸市美術館のユニークなプロジェクト型の活動を詳しく検証するため、3つの主要活動カテゴリー、①展覧会+プロジェクト、②学校連携(学校連携事業、大学・高専連携事業)、③アートファーマープロジェクトについて、活動実績(アウトプット)だけでなく、プロセス評価、アウトカム評価を実施する。プロセス評価では、プログラムが意図したデザインに沿って実施・遂行できているかを評価することで、具体的な活動や手段が計画どおりに実施できたか、改善点はないかなどを検証する。アウトカム評価では、各活動の効果や貢献度を評価するために、定量評価、定性評価を用いて、達成度合いを分析・判定する。

一方、これら以外の活動については、実績と振り返りコメントのみの評価とする。

(4) 総合評価(43 ページ)

上記セオリー評価、プロセス評価、アウトカム評価および実績評価の結果から、令和3年度から令和6年度までの八戸市美術館の事業活動を評価する。

なお、今回の評価では、アウトカムを裏付けるエビデンスが十分ではないところ、また、その達成度が不明確なところが散見される結果になることが予想される。これは、中期運営計画の策定時点がリニューアルオープン前であり、アウトカムの具体的内容が想定されていなかったため、必要なデータの収集が行われていなかったことに起因する。今後は、今回の評価結果を踏まえ、直接アウトカム、間接アウトカムに関する定量的・定性的データを収集することが求められる。大きな労力をかけずとも、工夫次第で効果的に進めることができるだろう。

3 当館のこれまでの活動概要

(1) 展覧会+プロジェクト（展覧会関連プログラムを含む）

八戸ゆかりの作品を中心とした収蔵品をより深く味わうコレクション展をはじめ、人気の高い巡回展や他美術館などと連携した企画展を実施した。また、展覧会だけでなく、作品鑑賞やものづくりワークショップなど、展覧会から学べる様々なプログラムから構成されるプロジェクトを実施した。そのほか、展覧会関連プログラムとして、当館の特徴であるジャイアントルームを活用し、ほろ酔い鑑賞「ほろハチ」や「ジャイアント食堂」など、芸術鑑賞の幅を広げる取組を行った。

八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」

開館記念企画として、八戸を代表する祭りである「八戸三社大祭」を出発点に、アートを通して「ギフト」の精神を見つめる展覧会とプロジェクトを開催した。

会期 | 令和3年11月3日(水・祝)～令和4年2月20日(日)

開催日数 | 93日間

会場 | ギャラリー、コレクションラボ、
ブラックキューブ、ホワイトキューブ、ジャイアントルーム



かだるアート 浮世絵編

八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」に関連して、共創パートナーを講師に迎え、出展作品の浮世絵から、浮世絵文化を学ぶ連続講座を開催するプロジェクト。

開催日 | 令和3年12月19日(日)、令和4年1月16日(日)、
4月17日(日)



持続するモノガタリ — 語る・繋がる・育む 八戸市美術館コレクションから

約5年ぶりの収蔵作品展。作品(モノ)が語ることと、人が作品を語ることの2つの意味での「モノガタリ」の持続をテーマに展覧会を開催した。

会期 | 令和4年3月19日(土)～6月6日(月)

開催日数 | 69日間

会場 | ホワイトキューブ、ブラックキューブ、会議室1



コレクションラボ 001 舟越保武展—静謐の中に佇む

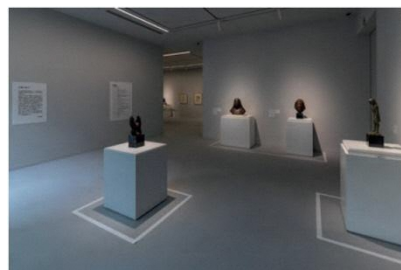
日本の戦後具象彫刻の礎を築いた舟越保武。キリスト教をテーマとした作品を多く手掛け、それらは、静謐、端正、精神性といった様々な言葉で形容された。当館の所蔵するブロンズ彫刻やリトグラフ、デッサンなど全 19 作品を展示した。

会期 | 令和4年3月 19 日(土)～6月 20 日(月)

※前期 | 3月 19 日(土)～5月9日(月) 後期 | 5月 12 日(木)～6月 20 日(月)

開催日数 | 82 日間

会場 | コレクションラボ



ジャイアント食堂

ジャイアントルームの可能性を探るプロジェクト。様々な活動が美術館で行われることの実践を提示し、美術館をより多くの市民に身近に感じてもらおうことを目的に開催した。

開催日 | 令和4年6月 25 日(土)

会場 | ジャイアントルーム



まるごと馬場のぼる展 描いた つくった 楽しんだ ニャゴ!

絵本「11 びきのねこ」シリーズで知られる漫画家・馬場のぼるを様々な側面から紹介する巡回展を開催。絵本や漫画の原画類、50 年分のスケッチブックなどに加え、漫画に熱中していた幼少期や青年期の貴重なノートやイラスト、楽しみのために制作した絵画や立体作品など 474 点を展示した。

会期 | 令和4年7月2日(土)～8月 29 日(月)

開催日数 | 51 日間

会場 | ホワイトキューブ、コレクションラボ、ブラックキューブ、ジャイアントルーム



コレクションラボ 002 地をみつめる

八戸ゆかりの作家による、八戸市の風景が描かれた収蔵作品を 21 点展示。作家や描かれた風景の紹介とともに、作品の描かれた背景や、作家の心情を紐解いた。

会期 | 令和4年9月 10 日(土)～令和5年1月 16 日(月)

※前期 | 9月 10 日(土)～11 月7日(月)

後期 | 11 月9日(水)～1月 16 日(月)

開催日数 | 109 日間

会場 | コレクションラボ



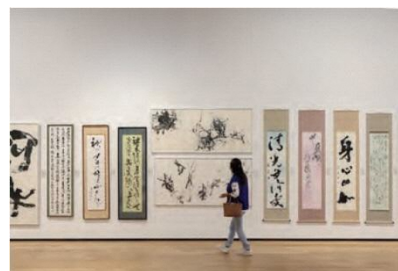
【共催展】第59回八戸市美術展

八戸市文化協会が長年実施する八戸市美術展を、八戸市美術館との共催により開催。多彩なジャンルの作品が展示されたほか、生活文化展では会場内でワークショップや体験コーナーが設置された。

会期 | 前期(書道)令和4年9月30日(金)~10月2日(日)

後期(絵画・工芸、写真)令和4年10月7日(金)~10月9日(日)

会場 | ホワイトキューブ、ジャイアントルーム、ギャラリー、スタジオ



佐藤時啓—八戸マジックランタン—

「写真のまち八戸」事業の一環として実施した展覧会であり、平成28年度からは写真家招聘プロジェクトとして佐藤時啓を招聘し、八戸市内をリサーチ・撮影した写真作品を制作、展示した。関連して佐藤が制作した「リヤカメラ(リヤカー+カメラ)」をアートファーマーが運行するプロジェクトなどを実施した。

会期 | 令和4年10月29日(土)~令和5年1月9日(月・祝)

開催日数 | 73日間

会場 | ホワイトキューブ、ブラックキューブ、ジャイアントルーム



コレクションラボ 003 七尾英鳳—花鳥風月を愛でる—

ふるさとの風景を愛で、その優美で繊細な美しさを表現し続けた七尾英鳳。十和田湖や八甲田山を描いた襖絵や屏風絵など、新収蔵となった作品5点を初公開するとともに、すでに収蔵していた作品から初期の山水図3点を加え、英鳳が得意とした「花鳥風月」の世界を紹介した。

会期 | 令和5年1月21日(土)~2月20日(月)

開催日数 | 27日間 会場 | コレクションラボ



コレクションラボ 004 伊藤二子—生のかたち—

昭和から平成にかけて、「非具象」による表現を探究した伊藤二子(1926~2019)。生きることへの問い掛けや心の内を、大胆な線や形、色で伝えようとした。躍動感あふれる新収蔵作品を初公開。

会期 | 令和5年2月24日(金)~4月10日(月)

開催日数 | 40日間

会場 | コレクションラボ、ブラックキューブ



【共催展】仲條正義名作展

資生堂企業文化誌『花椿』のアートディレクションで知られるグラフィックデザイナー・仲條正義のデザインの数々を、八戸ブックセンター・八戸市美術館の2会場で紹介。八戸ブックセンターではブック・エディトリアルを、八戸市美術館ではポスター、ロゴ、パッケージを中心に厳選した作品を展示した。

会期 | 令和5年4月 22 日(土)～5月 21 日(日)

開催日数 | 28 日間

会場 | ギャラリー



美しい HUG !

アーツカウンシル東京の森司をゲストキュレーターに迎え、青木野枝、井川丹、川俣正、きむらとしろうじんじん、黒川岳、タノタイガの6名のアーティストによる現代アートの展覧会とプロジェクトで構成する企画である。

会期 | 令和5年4月 29 日(土)～8月 28 日(月)

開催日数 | 122 日間

会場 | ホワイトキューブ、コレクションラボ、ブラックキューブ、
ジャイアントルーム



コレクションラボ 005 奏でる工芸

音をテーマに、工芸作品を展示。作品だけでなく、実際の楽器も展示し、作品に対応する音を探しながら鑑賞できる仕掛けをつくった。

会期 | 令和5年9月9日(土)～12月 18 日(月)

開催日数 | 87 日間

会場 | コレクションラボ



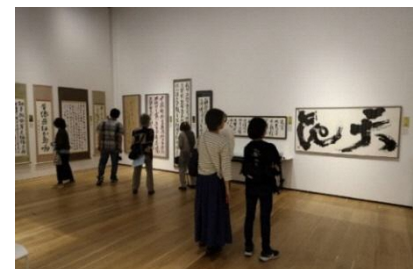
【共催展】第 60 回八戸市美術展

八戸市文化協会が長年実施する八戸市美術展を、八戸市美術館との共催により開催。多彩なジャンルの作品が展示されたほか、生活文化展では会場内でワークショップや体験コーナーが設置された。

会期 | 前期(書道)令和5年9月 21 日(木)～9月 24 日(日)

後期(絵画・工芸、写真)令和5年9月 28 日(木)～10月1日(日)

会場 | ホワイトキューブ、ジャイアントルーム、ギャラリー、スタジオ



ロートレックとバル・エポックの巴里—1900年

1900年前後の数十年間、パリが世界有数の大都市として発展した「バル・エポック」という華やかな時代を紹介する展覧会を開催した。当時を代表する芸術家であるアンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック(1864-1901)をはじめ、ミュシャやドガといった作家のリトグラフや油彩画の作品など、328点を展示した。共創パートナーとともに展示や関連する共創企画も実施した。



会期 | 令和5年11月3日(金・祝)～12月25日(月)

開催日数 | 46日間

会場 | ホワイトキューブ

ジャポニズム～バル・エポック共創企画

「ロートレックとバル・エポックの巴里」展に関連して、ロートレックやバル・エポックから着想された、共創パートナーと企画した、7つの様々な展覧会や映画上映会などを実施した。美術館だけでなく、街中にまで拡げて開催した。



開催期間 | 令和5年9月13日(水)～12月25日(月)

会場 | 八戸市美術館、八戸市公会堂、八戸クリニック街かどミュージアム、
ばんらば、青森銀行八戸支店、中心市街地各所など

アートミュージアム晚餐会

展覧会「ロートレックとバル・エポックの巴里—1900年」関連企画として市内ホテルのシェフやソムリエによる地元食材を使ったコースメニューを提供するとともに、社交ダンスやトークイベントなど、当時の雰囲気を感じてもらおうイベントを開催した。



開催日 | 令和5年11月29日(土)

会場 | ジャイアントルーム

コレクションラボ 006 美の殿堂 鈴木コレクション

女性や花などをモチーフとした写実画を中心に、個人コレクションが「美の殿堂」と呼ばれる「美術館」の起源の一つであることに着想を得た展覧会として、鈴木コレクションの華やかな世界を紹介した。



会期 | 令和5年12月23日(土)～令和6年3月18日(月)

開催日数 | 72日間

会場 | コレクションラボ

【共催展】デジタルとアナログで創造する 藤井フミヤ展 Fumiyart2024

ミュージシャンとして長年にわたり活躍している藤井フミヤによる多様な表現を用いた作品を通して、藤井フミヤが創造するクリエイティブな世界観を紹介する展覧会。

会期 | 令和6年1月20日(土)~3月25日(月)

開催日数 | 58日間

会場 | ホワイトキューブ



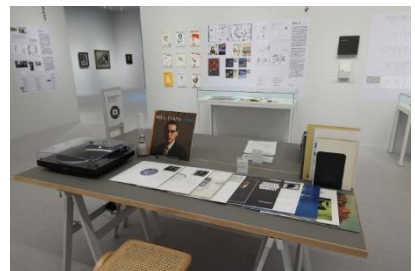
コレクションラボ 007 大久保景造と八戸文化

画家として、抽象、具象、墨彩や水彩と多様な絵を描いたのみならず、詩人、ジャズ喫茶・バー「車門」の店主、カルチャー雑誌の編集、合唱の作詞、市民創作オペラの台本制作など、多彩なジャンルの文化人であった大久保景造を紹介し、あわせて八戸のカルチャーシーンを概観した。

会期 | 令和6年3月23日(土)~7月8日(月)

開催日数 | 92日間

会場 | コレクションラボ



AOMORI GOKAN アートフェス 2024 メイン企画「エンジョイ!アートファーム!!」

青森県内の5つの美術館・アートセンターが連携した「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」における当館のメイン企画。当館を象徴する空間「ジャイアントルーム」において、八戸市に在住する5人のアーティストがプロジェクトを展開した。

会期 | 令和6年4月13日(土)~9月1日(日)

開催日数 | 123日間

会場 | ジャイアントルーム



展示室の冒険

展示室でくり広げられる「冒険」をテーマに、当館収蔵作品との出会いや鑑賞を体感する展覧会。“展示室の管理人”なるキャラクターが来場者を導くストーリー仕立ての構成とした。

会期 | 令和6年4月20日(土)~6月24日(月)

開催日数 | 58日間

会場 | ホワイトキューブ、ブラックキューブ



【共催展】tupera tupera のかおてん。

クリエイティブ・ユニット tupera tupera による「かお」をテーマにした展覧会。「かおノート」や「こわめっこしましょ」などの絵本原画をはじめ、映像作品「かおつくりズム」や体を使ってオリジナルの顔を作る「床田愉男」など、参加・体験型の作品を展示した。

会期 | 令和6年7月6日(土)～9月1日(日)

開催日数 | 51 日間

会場 | ホワイトキューブ、ブラックキューブ、ジャイアントルーム



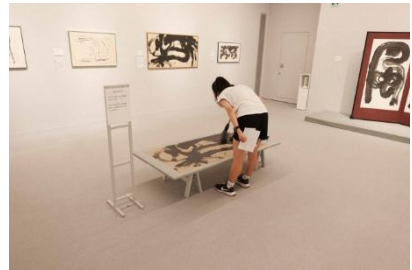
コレクションラボ 008 彩る書

書の収蔵作品約 300 点の中から、八戸ゆかりの書家の作品を展示。鑑賞者それぞれが作品の楽しみ方を探る工夫として、鑑賞シートや実物大の複製作品を筆でなぞるコーナー、水書のコーナーを設けた。

会期 | 令和6年7月13日(土)～10月28日(月)

開催日数 | 93 日間

会場 | コレクションラボ



【共催展】第 61 回八戸市美術展

八戸市文化協会が長年実施する八戸市美術展を、八戸市美術館との共催により開催。多彩なジャンルの作品が展示されたほか、生活文化展では会場内でワークショップや体験コーナーが設置された。

会期 | 前期(書道)令和6年9月 19 日(木)～9月 22 日(日)

後期(絵画・工芸、写真)令和6年9月 26 日(木)～9月 29 日(日)

会場 | ホワイトキューブ、ジャイアントルーム、ギャラリー、スタジオ



風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画

坂本小九郎と教育版画の出会いの「種」となった、版画教育に携わった郷土の版画家や県内の教育版画を紹介。そして、そこから花開いた坂本の教育版画の実践を、初期作品から、集大成となる 8 枚の連作と 2 m×4m の大作を含む「虹の上をとぶ船」シリーズまで、一堂に展示した。関連プロジェクトとして、THE COPY TRAVELERS と市内小学生による作品制作を行い展示した。

会期 | 令和6年10月12日(土)～令和7年1月13日(月)

開催日数 | 78日間

会場 | ホワイトキューブ、ブラックキューブ、ジャイアントルーム



八戸アーティストファイル 2025 Finding Our Beauty

八戸ゆかりのアーティスト8人を紹介する展覧会。地域の文化関係者がプレゼンター(推薦者)となり、今一番紹介したいアーティストを選出した。若手からベテランまでの多様な年代、写真家やデザイナー・絵画・プロジェクト・現代手芸など幅広いジャンルの8人のラインナップとなった。

会期 | 令和7年2月15日(土)～令和7年4月7日(月)

開催日数 | 46日間

会場 | ホワイトキューブ、ジャイアントルーム



コレクションラボ 009 リビングルーム

住人が過ごし、くつろいだり、団らんしたりする部屋である「リビングルーム」をテーマに、収蔵作品を展示した。リビングルームに見立てた展示室内に、テーブルセットやソファ、人工観葉植物などを置き、リラックスして鑑賞できる空間を提案した。会期中には「模様替え」として、展示作品やその配置、家具の向き等を変更した。

会期 | 令和6年11月2日(土)～令和7年2月24日(月)

開催日数 | 96日間

会場 | コレクションラボ



コレクションラボ 010 西野こよ 表現への挑戦

令和6年度新収蔵作品展として、南部菱刺しの復興と普及に尽力し、美術作品としての表現にも取り組んだ、西野こよの表現活動の一端を紹介。

会期 | 令和7年3月1日(土)～令和7年6月15日(日)

開催日数 | 93日間

会場 | コレクションラボ



【共催展】ボランティア書道教室 俊文書道会「書の発表会 超大作展」

「障がいの有無にかかわらず書を楽しもう」を合言葉に、障がい者と健常者を合わせて約30名の会員が所属しているボランティア書道教室「俊文書道会」の会員の作品64点を展示。

会期 | 令和7年1月18日(土)～1月26日(日)

開催日数 | 8日間

会場 | ホワイトキューブ、ジャイアントルーム



ほろ酔い鑑賞「ほろハチ」

ほろ酔い気分で作品鑑賞を楽しむ八戸市美術館オリジナル企画。お酒をいただいた後、コレクションラボの展示作品を鑑賞して感じたことや思い出を語り合った。

会場 | コレクションラボ、ジャイアントルーム



(2)学校連携(学校連携事業+大学・高専連携事業)

学校連携事業では、小・中・高校の教員、美術館の学芸員や専門家が「学校連携プロジェクトチーム」をつくり、館内に活動拠点となる「学校連携ラボ」を設置して、児童生徒一人一人がアートを通して自ら答えをつくり出していく力を引き出すことを目指して、学校の授業で役立つツールやプログラムづくりのほか、学校教育だけでは実現できない取組を行った。校種を超えて児童生徒が共同で創作活動を行ったり、アーティストが小学校に出張してワークショップを開催したりするなど、ものづくりやアートに触れる機会を提供した。

また、大学・高専連携事業では、市内の大学・高専が有する専門性と美術館の専門性を掛け合わせた取組を行い、生徒・学生などが大学・高専の専門性に触れることができる「三校連携創作体験ワークショップ」や、社会人と学生と一緒に学び、社会で実践できる「学生×社会人のアートの学び講座」を実施したほか、「託児サービス」では、子育て世代が美術館に気軽に来館できる機会と学生の実践的な学びの機会を創出するなど、美術館のアクセシビリティの向上につながる取組を行った。

学校連携事業

アートの学びを重視し、小学校・中学校・高等学校などの教育機関との連携強化を計画に掲げている。令和2年度に設置した「学校連携プロジェクトチーム」は、小中高の教員と美術館学芸員、専門家で構成されており、児童生徒の個々の価値観や美意識を醸成し、一人一人がアートを通して自立する機会をつくるために、互いにアイデアを出しながら協力し、活動している。令和5年度には学校連携プロジェクトチームの活動拠点となる「学校連携ラボ」を館内に設置した。



写真(左)学校連携プロジェクトチーム会議 (中央左)小中高合同鑑賞会 (中央右)美術館新聞部プロジェクト (右)大きな絵プロジェクト

大学・高専連携事業

美術館の特徴である「アート学び」の具現化に向けて、美術館の事業の柱の1つである大学との連携により大学ならではの資産を活用したアートを通じた人材育成に関する事業を行った。



写真(左)託児サービス (中央・右)三校連携創作体験ワークショップ

(3)アートファーマープロジェクト

美術館の企画や運営に能動的に関わる市民スタッフ「アートファーマー」が八戸市美術館の建築の魅力を独自の目線で紹介する「建築ツアーガイド」や、アーティストとの共同創作活動や企画運営をサポートするなど、美術館と人、作品と人、人と人をつなぐ取組を行った。

建築ツアーガイド

八戸市美術館の建築の魅力や特徴を、みんなで一緒に学び、学んだことを他の誰かに自分の言葉で伝える実践(ガイド)を通して、美術館と人をつなぎ、新たなコミュニティを育むことを目的に実施した

毎月最終土曜日に開催



リヤカーメラプロジェクト

展覧会「佐藤時啓—八戸マジックランタン—」関連プロジェクトとして、「リヤカーメラ(リヤカー+カメラ)」をアートファーマーが運行するプロジェクトなどを実施した。

1 | リヤカーメラプロジェクト

令和4年9月4日(日)、18日(日)、10月9日(日)、11月6日(日)

2 | リヤカーメラに乗ってみよう

令和4年9月18日(日)、11月6日(日)、12月3日(土)、18日(日)、令和5年1月7日(土)



きむらとしろうじんじん野点プロジェクト

美術家・陶芸家のきむらとしろうじんじんが、道具一式を積んだリヤカーで“野点”を開催。参加者が絵付けしたお茶碗をその場で焼き上げ、お茶を点てる。野点会場探しや野点本番の運営は、公募で集まったプロジェクトスタッフが行った。

- 1 | きむらとしろうじんじん八戸野点 2022
令和4年6月11日(土)～10月1日(土)
- 2 | きむらとしろうじんじん八戸野点 2023
令和5年5月3日(水)～10月7日(土)
- 3 | きむらとしろうじんじん南部町剣吉野点 2024
令和6年7月13日(土)～10月6日(日)



タノミマスプロジェクト

タノタイガ《タノニマス》の作品制作や運営をサポートするアートファーマープロジェクト。展示会の会期前には、アーティストによる作品説明やお面づくり体験、お面の穴あけやゴム通しなどの下準備を行った。会期中は、来場者の材料選びや制作のサポートを行った。



アートファーマーミーティング

「アートファーマープロジェクト」のこれまでとこれからの、これまで各プロジェクトで活躍してきたアートファーマーとアーティスト、そしてゲストとともに考えるミーティングを開催。

- 2024 開催日 | 令和6年3月16日(土) 会場 | ジャイアントルーム
2025 開催日 | 令和7年3月20日(木・祝) 会場 | ジャイアントルーム



あそらぼ！創作パズル・ゲーム展

冬休みイベント「あそらぼ！創作パズル・ゲーム展」を一緒に運営するプロジェクト。八戸在住の木のからくり作家をはじめとした「あそらぼ！実行委員会」と一緒に、アートファーマーが展示作品について学びながら準備を重ね、展示作品の遊び方の案内や見守りを行った。

開催日 | 令和5年12月23日(土)～令和6年1月14日(日)



アートファーマー企画「MEETIUM」

「MEETIUM(ミーティアム)」とは、「人に会う=meet」と「美術館=museum」を掛け合わせた造語。アートファーマープロジェクト「建築ツアーガイド」で活躍する市内の高校生が交流を生み出す場について考えるワークショップを開催した。

第1回 開催日 | 令和6年2月 24 日(土) 会場 | ワークショップルーム

第2回 開催日 | 令和6年5月 19 日(日) 会場 | スタジオ



美術館広報部

アートファーマーならではの視点と発想で美術館事業の情報や魅力を発信することを目指し、広報部を発足。令和6年7月から月1回のペースで講座やミーティングを行っている。



創作ゲーム展 あそらぼ! ep3.自然と共に

八戸在住の映像作家・マーティー松橋氏をはじめとした「あそらぼ! 実行委員会」による冬休みイベント。「自然と共に」をテーマに、アートファーマーがフィールドワークを行いながら展示作品「巨大すごろく」を制作するとともに、会期中の運営を行った。

開催日 | 令和6年 12 月 21 日(土)~令和7年1月6日(月)



(4)賑わい創出事業

美術館に来たことがない、または美術館は自分と縁遠い場所と思っている市民向けに、美術分野にこだわらず集客が見込めるイベントなどを実施し、美術館をより身近なものに感じてもらうとともに、中心街の活性化や回遊性向上につながる取組を行った。

ゴールデン・ジャイアント・ウィーク

ゴールデンウィーク期間に、まだ美術館に来たことがない・美術館に興味がない方をメインターゲットに、ジャイアントルームや広場を中心に集客イベントを開催し、来館動機を喚起する。子どもの日にちなんだプログラムや街中イベントなどと合わせて実施することで中心街の賑わいを創出し、街中の回遊性を高めるとともに、各実施団体・個人と共催することで、新たな共創パートナーの開拓を図った。

開催日 | 令和4年4月 29 日(金・祝)~5月8日(日)



ジャイアントサマー

夏休み期間に、まだ美術館に来たことがない・美術館に興味がない方をメインターゲットに、ジャイアントルームや広場を中心に集客イベントを開催した。「まるごと馬場のぼる展」にちなんだプログラムや街中イベントなどと合わせ、サマープログラムを実施することで中心街の賑わいを創出し、街中の回遊性を高めるとともに、各イベントにおいて各実施団体・個人と共催することで、新たな共創パートナーの開拓を図った。



開催日 | 令和4年7月2日(土)～8月29日(月)

ヨルニワ

中心街の活性化に寄与することを目的に、八戸市更上閣・八戸ポータルミュージアム「はっち」・八戸市美術館を会場に、キッチンカーや飲食屋台と音楽ライブを楽しむ屋外イベントを開催した。

開催日 | 令和5年6月10日(土)、10月14日(土)

令和6年6月8日(土)、10月5日(土)



(5)貸館利用

市内外で活動している個人・団体が、八戸市美術館の建物の特性を活かして、展覧会のみならず様々な活動で利用し、出会いと交流の場の創出につながるよう、貸館事業を行った。また、アートのまちづくりの拠点施設として、美術館としての従来の機能や役割を大切にしながら、スポーツ、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業など他分野についても、他部署などとの連携により、相乗効果が期待される企画について積極的に受け入れた。

3×3(スリー・エクス・スリー)

当館の特色であるジャイアントルームの活用の可能性を探る一環として、地元プロバスケットボールチーム「八戸ダイム」主催による3人制バスケットボール「3×3」のエキシビジョンマッチ会場として貸し出した。まだ、当館に訪れたことがない新たな客層が来館したほか、アートとスポーツの融合の可能性を探ることができた。



開催日 | 令和5年3月26日(日)

Cinematic Art Museum 1028

八戸市出身で人気ロックバンド「androp」のボーカル・内澤崇仁のアコースティックライブと特別ゲスト・大宮エリーが演奏に合わせたライブペインティングを披露し、音楽とアートを融合させたパフォーマンスを行った。

開催日 | 令和5年10月28日(土)



4 事業計画の評価

(1)ロジックモデルの作成

- ・中期運営計画に基づくロジックモデル A を作成した。(図1)
- ・評価アドバイザー・中村氏のファシリテーションのもと、事業評価ワークショップにおいてスタッフが2グループに分かれ、3年間の事業活動を踏まえて作成したロジックモデル2案を調整して、ロジックモデル B を作成した。(図2)
- ・ロジックモデル A にロジックモデル B を当てはめてロジックモデル C を作成した。(図3)

(2)事業計画の妥当性の検証(セオリー評価)

ロジックモデル C を検証した結果は次のとおりであった。

- ・展覧会やプロジェクト、共創企画は、八戸地域のアートやアーティストを知り、八戸地域の文化芸術の理解促進につながっていることから妥当性がある。
- ・学校連携事業は、美術館と小中高校の教員とのつながりが深まっており、今後、学校において朝鑑賞などの取組が進めば、八戸地域の文化芸術の理解が深まっていくことが想定されることから妥当性がある。
- ・アートファーマープロジェクトは、アーティストや仲間と一緒に創作活動を行うことで、世代を超えたつながりができたり、創造的な体験につながったりしていることから妥当性がある。

(3)セオリー評価から明らかになったこと

- ・当初の中期運営計画においては、直接アウトカムの想定がなかったために(活動を開始する前で具体的に想定できなかったために)、活動のアウトプットから中間アウトカムへ到達するプロセスが不明であった。今回のロジックモデル作成を通じて、美術館の活動がどのような直接アウトカムを生むかが言語化され、中間アウトカムにつながる道筋が見えてきた。
- ・同様に、これまで抽象的にしか語られてこなかった中間アウトカム、社会的インパクト(最終アウトカム)についても、美術館の活動と結びつく形で具体的に言語化されるようになった。
- ・その一方で、直接アウトカムの想定がなかったために、直接アウトカムのエビデンスが十分に示されておらず、達成度が明確ではない。今回の評価で想定が可能になったので、今後は、事業実施時にアウトカムに関する定量的・定性的データ(アンケート項目の工夫、参加者の証言記録など)を収集することが期待される。

(4)ワークショップでのロジックモデル(図2)作成による効果

- ・自分たちの言葉で対話することで、各スタッフがどのような考えを持っているかがわかり、(少しずつ違いはあっても)同じ目標に向かって行動していることが共有された。
- ・ロジックモデルの作成を通じて、各スタッフの担当するプロジェクトが、美術館全体の事業の中でどのような位置づけにあたるのかが明確になった。
- ・直接アウトカムが中間アウトカム、さらには社会的インパクト(最終アウトカム)につながっていくためには、更なる工夫や連携が必要であることが自覚された。

図1 ロジックモデルA (八戸市新美術館中期運営計画)

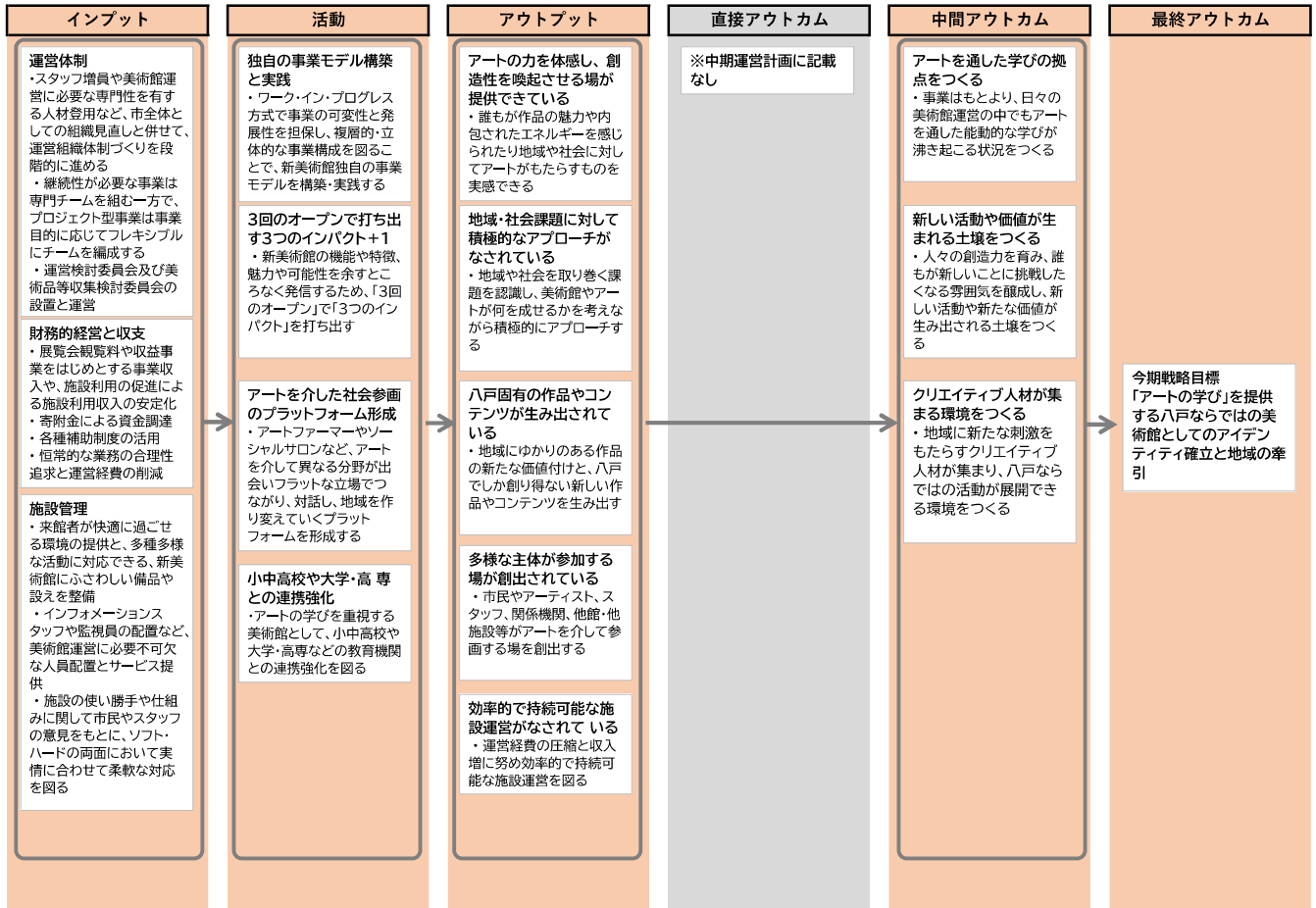


図2 ロジックモデルB (ワークショップにて作成)

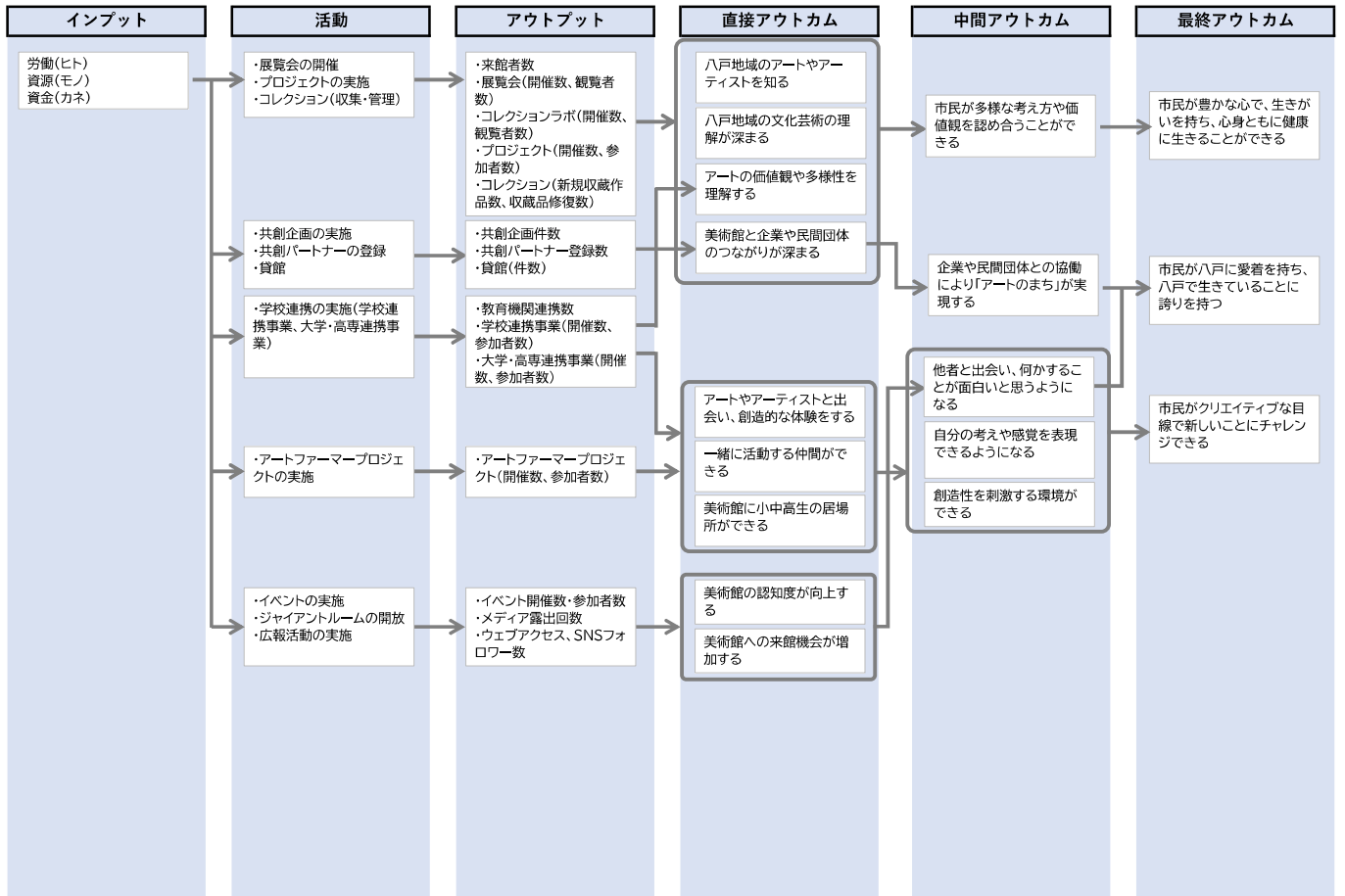
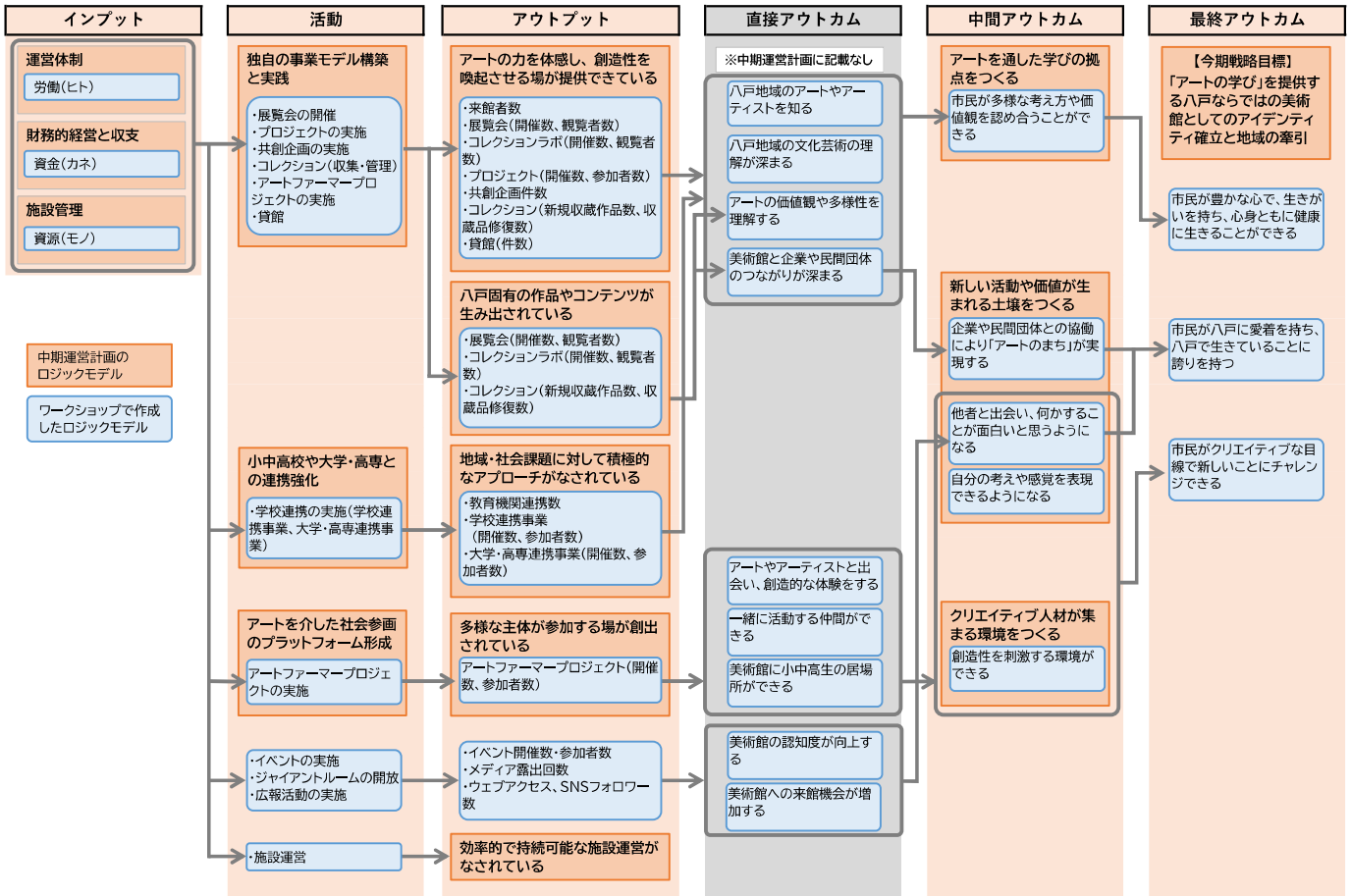


図3 ロジックモデルC



5 主要な活動の評価

(1) 展覧会+プロジェクト

事業の特徴

美術館の展示スペースである「ホワイトキューブ」や「コレクションラボ」を主に用いて展覧会を開催した。独自の企画に加え、収蔵作品から構成されるコレクション展、他美術館などと連携した巡回展などを実施した。展覧会だけでなく、作品鑑賞やものづくりワークショップなど、展覧会から学べる様々なプログラムから構成されるプロジェクトを実施した。

実施した活動

年度	内容
R3	八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」 アートファーマープロジェクト 向井山朋子パフォーマンス「gift」 アートファーマープロジェクト かだるアート 浮世絵編
R4	持続するモノガタリ 一語る・繋がる・育む 八戸市美術館コレクションから まるごと馬場のぼる展 描いた つくった 楽しんだ ニヤゴ！ 佐藤時啓一八戸マジックランタン— アートファーマープロジェクト 「リヤカーメラプロジェクト」 コレクションラボ 001 舟越保武展—静謐に佇む コレクションラボ 002 地をみつめる コレクションラボ 003 七尾英鳳—花鳥風月を愛でる— 第 59 回八戸市美術展【共催展】
R5	美しい HUG！ アートファーマープロジェクト きむらとしろうじんじん八戸野点 2023 アートファーマープロジェクト タノミマスプロジェクト ロートレックとベル・エポックの巴里—1900 年 仲條正義名作展【共催展】 コレクションラボ 004 伊藤二子—生のかたち— コレクションラボ 005 奏でる工芸 コレクションラボ 006 美の殿堂 鈴木コレクション 藤井フミヤ展 Fumiyart2024【共催展】 第 60 回八戸市美術展【共催展】
R6	展示室の冒険 tupera tupera のかおてん.【共催展】

風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画
八戸アーティストファイル 2025 Finding Our Beauty
コレクションラボ 007 大久保景造と八戸文化
コレクションラボ 008 彩る書
コレクションラボ 009 リビングルーム
コレクションラボ 010 西野こよ 表現への挑戦
第61回八戸市美術展【共催展】
AOMORI GOKAN アートフェス 2024 八戸企画「エンジョイ！アートファーム!!」

アウトプット指標

■各展覧会等実施数

	R3	R4	R5	R6
展覧会	1回	4回	5回	5回
コレクションラボ	0回	3回	3回	4回

■各展覧会の観覧者数

展覧会名	実績
八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」	13,089人
持続するモノガタリ	5,005人
まるごと馬場のぼる展	21,068人
佐藤時啓	6,305人
美しい HUG！	8,363人
ロートレックとバル・エポックの巴里	7,520人
仲條正義名作展【共催展】	7,915人
藤井フミヤ展【共催展】	12,681人
展示室の冒険	3,977人
tupera tupera のかおてん.【共催展】	27,297人
風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画	6,699人
八戸アーティストファイル 2025 Finding Our Beauty※1	2,427人
コレクションラボ 001 舟越保武展	6,418人
コレクションラボ 002 地をみつめる	9,809人
コレクションラボ 003 七尾英鳳	2,239人
コレクションラボ 004 伊藤二子	3,480人
コレクションラボ 005 奏でる工芸	8,525人
コレクションラボ 006 美の殿堂	10,308人
コレクションラボ 007 大久保景造と八戸文化	7,333人

コレクションラボ 008 彩る書	10,361 人
コレクションラボ 009 リビングルーム	7,098 人
コレクションラボ 010 西野こよ 表現への挑戦 ※1	1,984 人
第 59 回八戸市美術展【共催展】	5,613 人
第 60 回八戸市美術展【共催展】	4,792 人
第 61 回八戸市美術展【共催展】	4,564 人
ジャイアント食堂(プロジェクト)	4,065 人
「エンジョイ!アートファーム!!」 ※2	68,430 人

※1 R7.3.31 現在

※2 期間中の入館者数

■入館者数

年度	目標値	実績
R3	37,500 人	24,329 人
R4	90,000 人	119,983 人
R5	90,000 人	109,277 人
R6	90,000 人	125,226 人

R3年度は R3 年 11 月 3 日から R4年3月 31 日まで

※R4年1月 26 日～2月 20 日まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館

※R3 年度は開館期間が5か月間であったことから目標値を 37,500 人としている。
(90,000 人×5か月/12 か月)

■共創企画数

年度	実績
R3	1件(かだるアート 浮世絵編)
R4	0件
R5	2件(ジャポニズム～バル・エポック共創企画、街なかアートマップ制作)
R6	1 件(共に創る!アートのまちづくり魅力発見事業)

■主な展覧会関連イベント

イベント名	開催数	参加者数
ほろ酔い鑑賞「ほろハチ」	9 回	79 人
アートミュージアム晩餐会	1回	40 人

プロセス評価

■計画変更の有無など

・新型コロナウイルスの影響により、以下の活動に制限せざるを得なかった。また、イベントなどを実施する活動については、オフラインからオンラインへ変更したものが複数あった。

○新型コロナウイルスの影響により制限が生じた活動内容

活動内容	制限内容
八戸市美術館開館記念 ギフト、ギフト、	R4年1月26日～2月20日まで休館・人数制限を実施
アートファーマープロジェクト かだるアート 浮世絵編	R4年2月13日(日)は中止、3月13日(日)は4月17日(日)に延期して開催
プレイイベント 「浅田政志アーティストトーク+祭りのスナップ写真募集」	オンラインにて開催
種さがしラボ 01 「今、”ギフト”を考える。近内悠太×吉川由美トークイベント」	オンラインにて開催
アーティストトーク・最終日スペシャル！	オンラインにて開催
コレクションラボ 001 舟越保武展—静謐に佇む	R4年3月12日(土)開始予定を3月19日(土)に変更

- ・観覧者が少ない展覧会があったため、広報の方法や美術に関心がない層へのアプローチの工夫が必要である。
- ・展示替えなどで観覧できる展示が全くなかった期間があったため、展覧会がない期間が生じないように計画を立てる必要がある。
- ・ホワイトキューブでの展覧会を行っていない時期でも、これまでのプロジェクトで制作した「もの」や、写真・映像などのアーカイブに触れられる環境を整えたい。
- ・八戸市美術館公式 HP 上で活動を発信・アーカイブ化できる機能があるが、うまく運用できていない。
- ・ワークショップの講師から、実施後に活動を振り返ることができるアーカイブのウェブページがあったら良いという意見があり、取り組みたかったが、余裕がなくて結局できずに終わってしまった。
- ・アーティストが関与したプロジェクトでつくられた作品のコレクション化が必要である。
- ・企画内容の決定が遅れたため、募集開始から実施日までの日数が短くなってしまい、参加者募集の広報が間に合わなかった。
- ・業務が忙しすぎて、うまくいかなかった(参加者が少なかった)イベントに対して、なぜうまくいかなかったのか、どこを改善すればいいのかなど、活動を振り返る余裕がない。
- ・共創企画を行う共創パートナーが固定化しつつあるため、新たな共創パートナーを発掘する必要がある。

アウトカム評価

■来館者へのアンケート調査

調査結果は下表の通り、アンケート回答者のうち、すべての展覧会・コレクションラボにおいて、7割以上が「とても満足」または「満足」と回答した。「地元ならではの展示を見られて満足した」や「八戸にゆかりのある芸術家について詳しく知ることができた」、「作者の発想や見せ方に驚いた」などの好意的な感想があった。

一方で、「インパクトがない」、「何を見せたいのかわからない」、「他の美術館に比べてコンテンツが少ない」などの批判的な感想もあった。

展覧会やプロジェクトを通して、八戸ゆかりのアーティストを紹介できたほか、アートの奥深さを知ってもらう機会を提供できたが、展示のコンセプトや内容に対して不満を持つ観覧者もいることから、観覧者の満足度向上と合わせて、不満を減らすための取組も今後の課題である。また、回答数が少ない展覧会もあったことから、アンケート回収率を高める工夫が必要である。

○展覧会

	とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満	合計
持続するモノガタリ展 (n=18)	7人 38.9%	8人 44.4%	3人 16.7%	0人 0.0%	0人 0.0%	18人 100.0%
馬場のぼる展 (n=162)	109人 67.3%	42人 25.9%	11人 6.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	162人 100.0%
佐藤時啓展 (n=80)	35人 43.8%	27人 33.8%	14人 17.5%	0人 0.0%	4人 5.0%	80人 100.0%
美しいHUG!展 (n=55)	22人 40.0%	23人 41.8%	9人 16.4%	0人 0.0%	1人 1.8%	55人 100.0%
ロートレック展 (n=10)	7人 70.0%	2人 20.0%	1人 10.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	10人 100.0%
藤井フミヤ展 (n=18)	15人 83.3%	1人 5.6%	1人 5.6%	1人 5.6%	0人 0.0%	18人 100.0%
展示室の冒険 (n=118)	54人 45.8%	51人 43.2%	13人 11.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	118人 100.0%
tupera tupera のかお てん。(n=152)	97人 63.8%	43人 28.3%	11人 7.2%	1人 0.7%	0人 0.0%	152人 100.0%
風のなかを飛ばす種子(n =211)	166人 78.7%	38人 18.0%	6人 2.8%	1人 0.5%	0人 0.0%	211人 100.0%
八戸アーティストファイ ル 2025(n=88) ※	52人 59.1%	32人 36.4%	3人 3.4%	0人 0.0%	1人 1.1%	88人 100.0%

※R7.3.31 現在

〇コレクションラボ

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満	合計
船越保武展 (n=19)	8人 42.1%	7人 36.8%	4人 21.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	19人 100.0%
地をみつめる展 (n=95)	42人 44.2%	35人 36.8%	14人 14.7%	1人 1.1%	3人 3.2%	95人 100.0%
七尾英鳳展 (n=16)	10人 62.5%	5人 31.3%	1人 6.3%	0人 0.0%	0人 0.0%	16人 100.0%
伊藤二子展 (n=20)	13人 65.0%	5人 25.0%	2人 10.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	20人 100.0%
奏でる工芸展 (n=2)	1人 50.0%	1人 50.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 100.0%
鈴木コレクション展 (n=2)	1人 50.0%	1人 50.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 100.0%
彩る書展 (n=44)	14人 31.8%	19人 43.2%	11人 25.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	44人 100.0%
リビングルーム展 (n=287)	116人 40.4%	131人 45.6%	38人 13.2%	2人 0.7%	0人 0.0%	287人 100.0%
西野こよ展 (n=48) ※	20人 41.7%	22人 45.8%	6人 12.5%	0人 0.0%	0人 0.0%	48人 100.0%

※R7.3.31 現在

■活動によって起きた変化

・当館の収蔵作品を展示する展覧会やコレクションラボを通じて、八戸地域のアートやアーティストを知る機会を提供し、市民の地域の美術、歴史や文化への関心が高まった。観覧者からは、「高校卒業以来、八戸に対する興味を持てなかったが、作品を通じて故郷へ回帰した気持ちになった」、「わざわざ2時間かけて来て良かった。迫力のある絵に生きる元気をもらった」という感想があった。

・学芸員が、他の学芸員が企画した展覧会の準備を手伝うことによって、作品への理解が深まったり、新たなアーティストを知ったりする機会となり、新たな発想で企画案をつくることができた。

・美術館に興味がない人が、知人に誘われてリヤカーメラプロジェクトに参加したところ、美術館の活動が面白いと感じ、その後もタノミマスプロジェクトなどに参加している。

・ほろ酔い鑑賞「ほろハチ」やアートミュージアム晚餐会では、食や他分野のアートとの連携により、アートに触れる機会の提供を拡大できる可能性ができた。

・「風のなかを飛ば種子 青森の教育版画」の開催により、他館および他大学に所属する教育版画研究者が、当館において教育版画に関する研究会を開催したほか、会期終了後も八戸を訪れ、関係者へのインタビューを実施するなど、展覧会を契機として外部専門家との連携が深まった。

・展覧会をきっかけに、教育版画に関連する新たな資料の寄贈について打診を受けるなど、資料収集の面においても成果があった。

・「八戸アーティストファイル」については、観覧者数は多くなかったものの、八戸地域の文化関係者や作家との関係構築につながった。出品作家には、その後の美術館主催ワークショップの講師を依頼するなど、地域文化の振興に向けた協力関係を継続している。

■今後起きそうな変化

- ・継続的に満足度の高い展覧会やプロジェクトを行うことにより、当館への再訪意欲が高まり、美術館を身近なものとして感じる市民が増える。
- ・継続的に多様な展覧会・プロジェクトを行うことで、市民の美術への価値観の幅が広がり、鑑賞したい美術分野の要望が変化する。
- ・アートの特多様性を知ることで、美術以外の分野への興味・関心が向上する。
- ・多様な考えや価値観を認め合うことで、美術館が「市民と市民が美術を起点とした話し合い(交流)の場」になる。
- ・外部研究者との交流は、調査研究の深化につながるものであり、各分野においても、他機関との連携・交流が今後の研究促進につながる。
- ・他機関や外部研究者との連携・交流が、各分野における今後の調査研究の深化につながる。
- ・「西野こよ展」のワークショップを契機に海外留学生の参加があり、八戸の文化と市外・海外の文化との比較・交流を通じて、新たな価値の発見や活動が展開する。

■中間・最終アウトカムを達成するために今後必要なこと

- ・八戸地域の風土に根差した独自の文化芸術作品の展覧会や国内外問わず多様な分野の展覧会、能動的に関わることのできるプロジェクトの提供。
- ・芸術鑑賞の幅を広げるため、アートミュージアム晩餐会やほろ酔い鑑賞「ほろハチ」など、当館だからこそできる企画の取組み。
- ・小・中学校を中心とした低年齢層への広報活動の継続。

(2)学校連携(学校連携事業、大学・高専連携事業)

事業の特徴

①学校連携事業

八戸市美術館では、アートの学びを重視し、小学校・中学校・高等学校などの教育機関との連携強化を計画に掲げている。令和4年度に設置した「学校連携プロジェクトチーム」は、小中高の教員と美術館学芸員、専門家で構成されており、児童・生徒の個々の価値観や美意識を醸成し、一人一人がアートを通して自立する機会をつくるために、互いにアイデアを出しながら協力し、活動している。これまでの活動の中で、教員は、美術館との連携授業やプロジェクトを考えたり、実際にそれを実践して観察し、今後の授業へ活かしたりしている。また、校種の異なる教員と協力、交流することで、多くのことを学び合っている。同時に、八戸市美術館の学芸員も、教員から教育のあり方を学び、美術館の事業に活かしている

②大学・高専連携事業

美術館の特徴である「アートの学び」の具現化に向けて、美術館の事業の柱の1つである大学との連携により大学ならではの資産を活用したアートを通じた人材育成に関する事業を行っている。ジャイアントルームや八戸学院まちなかラボを始めとする様々な活動スペースの利活用や、大学活動拠点と連携した事業の方向性を探り、人材育成や地域の活性化、アクセシビリティの向上につなげる事業を展開した。

実施した活動

①学校連携事業

年度	活動内容
R3	学校連携プロジェクトチーム全体会議
	大きな絵プロジェクト
	小中高同じテーマで作品づくりプロジェクト
	美術館新聞部プロジェクト
R4	学校連携プロジェクトチーム全体会議
	小中校合同鑑賞会
	美術館新聞部プロジェクト
	はみ出す力展 vol. 4—図工・美術の授業展 2022 への出展
	令和4年度 第1回総合教育会議
R5	学校連携プロジェクトチーム全体会議
	展覧会「美しい HUG！」タノタイガによる小学校出張ワークショップ
	美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修(講師登壇)
	PUTI PUTI LAND
	学校連携ラボの設置
	はみ出す力 30 展への出展
	美術館新聞部プロジェクト
朝鑑賞に学ぶファシリテーター研修	

R6	学校連携プロジェクトチーム全体会議
	「はみ出す力展 vol.6 ～授業の展覧会 2024～」の開催
	みんなでじっくり鑑賞ナビ(「展示室の冒険」学校連携企画)
	コピトラとつくる\ココハドコダ!/?/パラレルシティ(「風のなかを飛ばす種子」プロジェクト)
	教育版画出張授業(「風のなかを飛ばす種子」企画)
	美術館新聞部プロジェクト
	朝鑑賞の校内研修
	鳥取県立美術館「朝鑑賞シンポジウム」での登壇
	八戸市小学校図画工作科教育研究会研究授業の実施
学校連携事業活動報告冊子の作成	

②大学・高専連携事業

年度	内容	
R3	1 アートの魅力発見・共有事業 アートは難しくない！ 私なりの八戸アートの楽しみ方 八戸とアートはつながる！ 私なりの八戸アート企画会議 私たちがつくる！ 八戸アート発表会	
	2 アート教育指導者育成事業	
	3 プレオープンイベント事業 開館まで待てない！ みんなでチャレンジ 88 日!! オリジナルカウンターボールをつくろう☆	
	4 三校連携「アート×〇〇」講座事業(アート×子ども、アート×食、アート×縄文)	
R4	1 三校連携創作体験ワークショップ 「11 びきのねこマラソン大会」ジャイアントぬりえ 「11 びきのねことぶた」に出てくる、ぶたくんのいえをつくろう！ きえちやう写真を撮ろう～うごく世界ととまった世界～ みんなで創る写真の音楽 とばして まわして 遊ぼう！ 1Park(わんぱーく) SDGs×LEGO-わたしたちの未来- ハチビ×是川縄文ジャック 科学工作！ 光通信機をつくろう	
	2 学生×社会人のアートの学び実践講座事業 ジャイアントルーム開拓団	
	3 美術館のアクセシビリティ向上事業 託児サービス	
	R5	1 三校連携創作体験ワークショップ 認知症世界の歩き方～認知症の方が生きている世界を旅してみよう～ ダンボール工作でオリジナルの人形とブロックを作って遊ぼう！ ブリリアント・ミネラル

	英語で手作りクリスマスクラフト
	僕の私の小さな家づくり
	2 学生×社会人のアートの学び実践講座事業
	第1回「国の紹介と地球環境を守る取り組みについて」
	第2回「伝統文化とアート“和菓子”をつくろう！」
	第3回「地域と世界をつなぐサステナブルな未来へ」
	3 美術館のアクセシビリティ向上事業
	託児サービス
	ベビーファーストデー
R6	1 三校連携創作体験ワークショップ
	アートな吹き流し制作ワークショップ
	音のなる絵本を創ろう
	ブリリアント・ミネラル
	2 学生×社会人のアートの学び実践講座事業
	第1回「誰もが利用しやすい美術館とは？」
	第2回「美術館の利用しやすさを考える パート①」
	第3回「美術館の利用しやすさを考える パート②」
	3 美術館のアクセシビリティ向上事業
	託児サービス
	ハッピーファミリーアワー

アウトプット指標

①学校連携事業

■学校連携プロジェクトチーム活動数・参加者数

年度	実績
R3	会議 3回
	小学校教員7人、中学校教員5人、高等学校教員2人、専門家1人、学芸員2人
R4	会議 3回
	小学校教員9人、中学校教員6人、高等学校教員3人、専門家1人、学芸員2人
R5	会議 3回
	小学校教員9人、中学校教員5人、高等学校教員3人、専門家1人、学芸員2人、学校連携コーディネーター1人
R6	会議 2回
	小学校教員7人、中学校教員5人、高等学校教員3人、専門家1人、学芸員2人、学校連携コーディネーター1人

■教育機関連携数

年度	内容	実績
R3	大きな絵プロジェクト	小学校2校、中学校3校、高校1校
	小中高同じテーマで作品づくりプロジェクト	小学校2校、中学校3校、高校1校
	美術館新聞部プロジェクト	小学校1校、高校1校
R4	小中校合同鑑賞会	小学校2校、中学校1校、高校1校
	美術館新聞部プロジェクト	小学校1校、中学校1校、高校1校
	令和4年度 第1回総合教育会議 公開授業	小学校1校
R5	美術館新聞部プロジェクト	小学校1校、高校1校
	PUTI PUTI LAND	中学校2校
	朝鑑賞の校内研修	中学校1校
R6	美術館新聞部プロジェクト	小学校1校、高校1校
	出張授業	小学校2校、中学校1校、高校1校
	朝鑑賞ファシリテーター研修	小学校1校、中学校1校
	学校連携事業活動報告冊子作成	

■参加者数

年度	内容	実績
R3	大きな絵プロジェクト	195人
	小中高同じテーマで作品づくりプロジェクト	67人
	美術館新聞部プロジェクト	7人
R4	小中校合同鑑賞会	17人
	美術館新聞部プロジェクト	11人
	令和4年度 第1回総合教育会議 公開授業	50人
R5	展覧会「美しいHUG！」タノタイガによる小学校出張ワークショップ	98人
	PUTI PUTI LAND	ボランティア50人 〔ワークショップ参加150人〕
	朝鑑賞に学ぶファシリテーター研修	40人
	美術館新聞部プロジェクト	13人
	朝鑑賞の校内研修	10人
R6	出張授業	268人
	美術館新聞部プロジェクト	14人
	朝鑑賞ファシリテーター研修	24人

■社会科見学・遠足受入数

	R3	R4	R5	R6
学校数	22校	23校	32校	30校
児童数	661人	843人	1,013人	836人
引率者	84人	76人	113人	106人
合計	745人	919人	1,126人	942人

②大学・高専連携事業

■アート学び事業プログラム数

	R3	R4	R5	R6
プログラム数	8	10	10	8

■教育機関連携数

	R3	R4	R5	R6
教育機関数	3校	3校	3校	3校

■参加者数

年度	内容	実績
R3	1 アートの魅力発見・共有事業	
	アートは難しくない！ 私なりの八戸アートの楽しみ方	18人
	八戸とアートはつながる！ 私なりの八戸アート企画会議	15人
	私たちがつくる！ 八戸アート発表会	3人
	2 アート教育指導者育成事業	12人
	3 プレオープンイベント事業 開館まで待てない！ みんなでチャレンジ 88日!! オリジナルカウンターボールをつくろう☆	27人
4 三校連携「アート×〇〇」講座事業(アート×子ども、アート×食、アート×縄文)	—	
R4	1 三校連携創作体験ワークショップ	
	「11 ぴきのねこマラソン大会」ジャイアントぬりえ	—
	「11 ぴきのねことぶた」に出てくる、ぶたくんのいえをつくろう！	18人
	きえちゅう写真を撮ろう～うごく世界ととまった世界～	40人
	みんなで創る写真の音楽	14人
	とばして まわして 遊ぼう！ 1Park(わんぱーく)	60人
	SDGs×LEGOーわたしたちの未来ー	19人
	ハチビ×是川縄文ジャック	20人
	科学工作！ 光通信機をつくろう	12人
	2 学生×社会人のアートの学び実践講座事業	
	ジャイアントルーム開拓団	25人
3 美術館のアクセシビリティ向上事業		
託児サービス	60人	
R5	1 三校連携創作体験ワークショップ	
	認知症世界の歩き方～認知症の方が生きている世界を旅してみよう～	12人
	ダンボール工作でオリジナルの人形とブロックを作って遊ぼう！	22人
	ブリリアント・ミネラル	9人
	英語で手作りクリスマスクラフト	20人
	僕の私の小さな家づくり	18人
	2 学生×社会人のアートの学び実践講座事業	
	第1回「国の紹介と地球環境を守る取り組みについて」	18人

	第2回「伝統文化とアート“和菓子”をつくろう！」	19人
	第3回「地域と世界をつなぐサステナブルな未来へ」	42人
	3 美術館のアクセシビリティ向上事業	
	託児サービス	50人
	ベビーファーストデー	44人
R6	1 三校連携創作体験ワークショップ	
	アートな吹き流し制作ワークショップ	21人
	音のなる絵本を創ろう	22人
	ブリリアント・ミネラル	19人
	2 学生×社会人のアートの学び実践講座事業	
	第1回「誰もが利用しやすい美術館とは？」	9人
	第2回「美術館の利用しやすさを考える パート①」	12人
	第3回「美術館の利用しやすさを考える パート②」	11人
	3 美術館のアクセシビリティ向上事業	
	託児サービス	40人
ハッピーファミリーアワー	0人	

プロセス評価

【大学・高専連携事業】

・貸館やイベントの予約などで、ワークショップを行う部屋が足りなくなり、確保に苦労したため、事前に事業内容や使用する部屋などを想定して準備しておくべきだった。

アウトカム評価

■活動によって起きた変化

【学校連携事業】

・豊崎小学校教員によると、中学生や高校生と一緒に活動したことが刺激になって、図工が大好きになった参加児童がいたとの感想があった。

・城北小学校から社会科見学の訪問先として相談を受けたり、八戸工業高校美術部の美術館見学の相談を受けたりするなど、教員と美術館との距離感が近くなり、学校教育の場として美術館を活用するようになった。

・教員からは、仕事のモチベーションが上がった、授業づくりや指導のヒントを得た、異なる校種の先生との出会いや人脈が広がったとの感想があった

・授業開始前に美術作品の鑑賞を通して教員と児童生徒が対話をする「朝鑑賞」に取り組もうと、島守中学校教員が校内研修として「朝鑑賞」のファシリテーター研修を行った。

【大学・高専連携事業】

・三校連携創作体験ワークショップへの参加を通じて、児童や保護者が大学や高専が持つ専門性に触れることができた。

・「僕の私の小さな家づくり」のアンケート調査(n=14)では、「非常によかった」が 78.6%(11人)、「よかった」が 21.4%(3人)であり、満足度は 100%であった。また、参加児童の保護者からは、「考える力が身につく場になった。

将来どのような職業につくかいい判断材料になった」、「建築家になりたい夢があるので憧れが強くなったようです」などの感想があった。

■今後起きそうな変化

【学校連携事業】

- ・児童・生徒が美術館を身近な施設として気軽に訪れるようになる
- ・「朝鑑賞」を行う学校が増え、市内学校にも徐々に広まる。
- ・美術館を活用した授業の相談が増える。

【大学・高専連携事業】

- ・大学・高専と美術館の連携が深まり、新たな企画が生まれる。
- ・生徒・学生が美術館を身近な施設として気軽に訪れるようになる。

■中間・最終アウトカムを達成するために今後必要なこと

【学校連携事業】

- ・学校連携プロジェクトチームの活動拠点である学校連携ラボの更なる活用。
- ・美術館に来て、作品や活動に触れてもらえるよう、全小学校児童の招待。

【大学・高専連携事業】

- ・大学や高専が有する専門性と美術館が有するアートの専門性の融合による「アートの学び」の活発化による新たな取り組み。
- ・子育て世代、障がい者など、美術館のアクセシビリティの更なる向上。

(3)アートファーマープロジェクト

事業の特徴

八戸市美術館では、美術を鑑賞するだけでなく、アートを介した様々な体験を通して、地域コミュニティを耕し、育む人のことを「アートファーマー」と呼び、様々なプロジェクトを実施する。

実施した活動

年度	内容
R3	建築ツアーガイド(R3～)
	向井山朋子パフォーマンス「gift」
	かだるアート 浮世絵編
R4	リヤカーメラプロジェクト
	きむらとしろうじんじん八戸野点 2022
R5	タノミマスプロジェクト
	きむらとしろうじんじん八戸野点 2023
	あそらぼ！創作パズル・ゲーム展
	MEETIUM
	アートファーマーミーティング
R6	きむらとしろうじんじん南部町剣吉野点 2024
	美術館広報部
	あそらぼ！ep3.自然と共に
	MEETIUM
	アートファーマーミーティング

アウトプット指標

■建築ツアーガイド

年度	登録者数(累計)	活動数
R3	10人	8回
R4	16人	17回
R5	23人	17回
R6	33人	16回

■アートファーマープロジェクト実績

年度	内容	参加者数	アートファーマー参加者	活動回数
R3	かだるアート浮世絵編	25人		3回
R4	リアカーメラ	203人	11人	9回
	野点 2022	140人	のべ 94人	7回

R5	タノミマス		27人	
	野点 2023		41人	9回
	手話通訳ガイドツアー	20人		2回
	あそらぼ 2023	来館者 5,907人	12人	
	MEETIUM	17人	4人	1回
	アートファーマーミーティング	13人	17人	1回
R6	きむらとしろうじんじん南部町 剣吉野点 2024	300人	52人	3回
	美術館広報部		9人	12回
	あそらぼ！ ep3.自然と共に	2,940人	30人	22回
	MEETIUM	12人		1回
	アートファーマーミーティング	18人	12人	1回

プロセス評価

■建築ツアーガイド

- ・新規参加者が増えるような広報の方法を検討していきたい。
- ・卒業制度はないが、初期のメンバーでほとんど活動していない人もいるため、年に1度は継続の意向確認を行うことも検討したい。
- ・子育てや介護をしている人も活動に参加しやすいように、平日の日中や託児サービスのある日に活動日を設定するなど、活動日を自由に選択できるようにすることも検討したい。
- ・建築ツアーガイドに参加した人にどのような変化が起きたのかを計測する方法や、活動のアーカイブ方法を検討したい。

■その他

- ・アートファーマーが自主的に企画・発信できるような制度を検討しているが、対応するスタッフの人手不足が課題である。
- ・ジャンルや活動内容の特色を明確にし、対象を絞ったことで、これまで参加のなかった層(編み物や紙工作に関心のある人など)の参加につながった。

アウトカム評価

■アートファーマーへのアンケート調査

- ・令和6年3月にアートファーマーへのアンケート調査(n=19)を行ったところ、「地域に対する新たな発見があった」と回答したのは89.5%(17人)、「創造力を刺激されるような体験があった」と回答したのは94.8%(18人)、「能動的な学びの機会となった」と回答したのは100%(19人)、「プロジェクトに参加することで、自身にとってよい変化があった」と回答したのは100%(19人)であった。また、「アートファーマープロジェクトはあなたにとってどのようなものか」という質問に対しては、「新たな価値観を学ぶ機会」、「家や会社とは別の『もう1つの居場所』」、「市民同士のコミュニティを形成することができるプロジェクト」などの意見があった。

■活動によって起きた変化

・アーティストや仲間と一緒に創作活動を行うことで、アートの多様性への理解が進み、世代を超えた人とのつながりが生まれている。アートファーマーからは、「美術館に来館する人や八戸を訪れる人たちへのおもてなしの心を持つようになった」や「地域に積極的に関わる、知る、学ぶ、共有するようになった」、「アートと地域で何ができるのか、自分ができる小さなことを考えたりやってみたりするようになった」などの感想があり、行動や気持ちの変化が生じている。

・建築ツアーガイドで活躍する市内の高校生が、八戸市美術館をテーマにいろんな世代の考えを共有しながら、よりよい八戸にするための「企画書」を作成するワークショップ「MEETIUM」を開催するなど、能動的な活動につながった。

・建築ツアーガイド等の活動が、進路選択や将来設計を考えるうえで有意義な機会となっている。

・高校生の活躍が刺激となり、後輩など若い参加者の増加につながっている。

■今後起きそうな変化

・創造性が生まれ、自ら何かを生み出したいという気持ちが高まり、美術館への持ち込み企画が増えるほか、自ら企画を考えて実行するなど、美術館を活用した自己表現につながる。

・世代を超えた人のつながりができ、美術館を日常的な活動場所や居場所として活用するようになる。

■中間・最終アウトカムを達成するために今後必要なこと

・より多くのアートファーマーに参加してもらうため、これまであまり関わりあいのなかった分野(福祉・農林水産業など)と連携したプロジェクトの検討。

・アートファーマーが自主的に企画・発信できるような仕組み。

・地域活動を行う多様な主体のつながりづくり。

6 その他の活動の評価

八戸市美術館の主な事業以外の活動については下表のとおりである。

コレクション(収集・管理)

1 収集

年度	内容
R3	八戸市美術館美術品等収集委員会(1回)
R4	八戸市美術館美術品等収集委員会(1回) 新規収蔵作品 23点ほか
R5	新規収蔵作品 18点ほか
R6	八戸市美術館美術品等収集委員会(1回) 新規収蔵作品 18点ほか

2 管理

年度	内容
R3	収蔵品修復 18点 収蔵品撮影 デジタル撮影 17点、フィルム撮影 10点
R4	収蔵品修復 9点 収蔵品撮影 デジタル撮影 100点、フィルム撮影 100点
R5	収蔵品修復 18点 収蔵品撮影 デジタル撮影1点、フィルム撮影 98点
R6	収蔵品状態調査 4点 収蔵品撮影 デジタル撮影 99点、フィルム撮影 99点

■達成度

・計画通り実施できた。

■次期に向けての改善提案

・虫菌害対策として、関係者全員の問題意識共有の場を設けるほか、特別清掃強化などのソフト面の取組を強化する。

■今後の課題

・購入による作品収集をしていないため、コレクションの体系化を積極的に進められていない。
・日常清掃や特別清掃等の対象外となっている箇所において文化財害虫の発生が確認されていることから、対応策の検討および清掃方法の見直しが求められる。

賑わい創出事業／イベント

年度	内容	実績
R3	美術館のプロローグ	
R4	ゴールデン・ジャイアント・ウィーク	プログラム数 10回
	ジャイアントサマー	プログラム数 5回
	開館1周年！美術館の誕生日	プログラム数 3回
	あそらぼ 2022～高橋みのるのゲームとからくりおもちゃ展	プログラム数 3回
R5	ゴールデンウィークイベント	プログラム数 2回
	美術館の夏休み 2023	プログラム数 7回
	ヨルニワ	開催数 2回
	音楽のタベ	開催数 1回
	現代八幡馬展～いまを駆ける～	開催日数 5日
	えんぶり公演	開催数 1回
	キッチンカー出店	平日中心に不定期
R6	美術館の夏休み 2024	プログラム数 4回
	ヨルニワ	開催数 2回
	音楽のタベ	開催数 3回
	はちのへ木の魅力たっぷり おもちゃフェスティバル	開催数 1回
	創作ゲーム展 あそらぼ！ ep3.自然と共に	開催数 1回
	えんぶり公演	開催数 1回
	キッチンカー出店	平日中心に不定期

■達成度

・計画通り実施できた。

■今後の課題

・来館数の増加や中心街の回遊性向上などの相乗効果が得られるように、近隣の観光スポットや、八戸ポータルミュージアムや八戸ブックセンターなどの中心街にある文化観光施設と積極的に連携を強化するほか、子ども向けのイベントを行うことで、幼少期から美術館に慣れ親しんでもらえるような取組を行う必要がある。

・展示替えなどで観覧できる展示がない閑散期などに、イベントを計画するなど、新たな利用者の獲得や美術館の利用促進を図る必要がある。

連携／共催事業

年度	内容	入館者数
R4	第 55 回八戸市小学校図画工作展	4,683 人
	新春屏風展 ～デジタル光筆画で見る屏風の世界～	6,883 人
R5	新春屏風展 ～デジタル光筆画で見る屏風の世界～	5,035 人
	第 56 回八戸市小学校図画工作展	1,383 人
R6	新春屏風展 ～デジタル光筆画で見る屏風の世界～	5,420 人
	第 57 回八戸市小学校図画工作展	2,497 人
	白マドの灯「街の灯プロジェクト」	—

■達成度

・計画通り実施できた。

■今後の課題

・スケジュールに沿って円滑に運営するため、早い段階から主催団体に働きかけ、情報収集や連絡調整を行う必要がある

貸館

年度	内容
R3	一般貸館 2件
	貸館説明会 3回
R4	特別貸館 2件
	一般貸館 54 件
	貸館説明会 2回
R5	特別貸館 1件
	一般貸館 111件
	貸館説明会 2回
R6	特別貸館 2件
	一般貸館 105 件
	貸館説明会 2回

■達成度

・計画通り実施できた。

■次期に向けての改善提案

・市民が貸出施設を活用しやすいよう、空き状況などを HP や SNS を活用して周知する。

その他事業

1 5館連携プロジェクト AOMORI GOKAN

年度	内容
R3	情報発信、建築ツアー、トークイベント
R4	情報発信、アートフェス実行委員会設立
R5	情報発信
R6	AOMORI GOKAN アートフェス 2024 八戸企画「エンジョイ！アートファーム!!」

2 はちとまネットワーク

年度	内容
R3	会議開催 1回
R4	会議開催 1回
R5	会議開催 1回
R6	会議開催 1回

■達成度

・計画通り実施できた。

■今後の課題

・AOMORI GOKAN アートフェス 2024 は終了したが、一過性のものに終わらせないよう、青森アートミュージアム5館連携協議会の枠組みを活かした取組を継続する必要がある。

広報

1 メディア露出回数

	R3	R4	R5	R6
雑誌	40回	37回	38回	39回
新聞	34回	82回	20回	18回
ラジオ	2回	16回	8回	14回
Web	23回	33回	38回	32回
テレビ	3回	11回	22回	11回
その他	16回	9回	46回	24回

2 ウェブアクセス・SNS フォロワー数

	R3	R4	R5	R6
ウェブアクセス	72,758回	158,711回	158,880回	205,296回
X(旧 TWITTER)	—	3,034人	3,498人	4,051人

Facebook	—	1,109人	1,321人	1,450人
YouTube	—	161人	192人	218人
Instagram	—	2,909人	3,910人	5,126人
LINE「ヨッテミッテ」	—	—	—	471人

■達成度

・計画通り実施できた。

■次期に向けての改善提案

・県内の美術館に比べて、SNS のフォロワー数が少ないことから、展覧会やプロジェクトなどの情報を開催前、開催中に計画的に発信する。

施設管理

施設運営費の状況

(単位:千円)

		R3	R4	R5	R6
支出	人に係る経費	93,553	96,436	106,791	118,169
	企画運営費	36,877	72,012	57,799	63,412
	施設の維持管理費	108,921	140,408	152,699	173,656
	うち、光熱水費	27,211	36,270	35,018	37,717
	うち、委託料	68,091	92,553	104,049	119,622
	合計	239,351	308,856	317,289	355,237
収入(財源)	使用料	11,722	14,590	8,926	8,113
	その他	8,402	13,926	5,172	9,464
	一般財源	219,227	280,340	303,191	337,660
	合計	239,351	308,856	317,289	355,237

※参照:はちのへ大型公共施設見える化シート(八戸市美術館)

■達成度

・計画通り実施できた。

■今後の課題

・持続可能な施設運営のため、維持管理業務委託の仕様見直しや節電による光熱水費の削減のほか、魅力的な展覧会の開催による観覧料収入増や企画に連動した国庫補助金などの財源確保にも取り組む必要がある。

7 総合評価と今後の展望

(1)ユニークな取組の構想・実施に対する評価

八戸市美術館は、アートを通じた出会いが人を育み、人の成長がまちを創る「出会いと学びのアートファーム」をコンセプトとして、令和3年 11 月にリニューアルオープンした。従来の「もの」としての美術品展示が中心だった美術館であることはもとより、「ひと」が活動する空間を大きく確保することで、「もの」や「こと」を生み出す新しいかたちの美術館として、新たな文化創造と八戸市全体の活性化を図ることを目指した。そのために、他の美術館には見られない、次のようなユニークな事業に着手した。

- ① 展覧会開催時に関連のプロジェクトを実施することで多様な市民の参加を促す取組
展覧会＋プロジェクト、展覧会関連プログラム
- ② 地域の学校などと連携して事業を行うことで美術館の機能を拡大させる取組
学校連携事業、大学・高専連携事業
- ③ 市民ボランティアによるプロジェクトの企画運営を実現させる取組
アートファーマープロジェクト
- ④ 美術館とは縁がなかった市民に美術館を身近に感じさせる取組
賑わい創出事業

以上は、現時点では試行錯誤の段階ではあるものの、八戸市美術館ならではの取組として大きく発展することが期待されるものである。これらの多くの事業にリニューアルオープン後4年のうちに構想・着手し、実績を重ねることができたことは、重要な成果だと評価できる。

(2)中期運営計画の達成度評価

①中間アウトカムに対する達成状況

中期運営計画(令和2年3月)で定めた中間アウトカムに対する達成状況について、下表のように、「達成できている」「概ね達成できている」「やや達成できている」「あまり達成できていない」「ほとんど達成できていない」の5段階で評価した。

中間アウトカム	評価
■アートを通した学びの拠点をつくる ・市民が多様な考え方や価値観を認め合うことができる	概ね達成できている
<p>【評価理由】</p> <p>展覧会+プロジェクトでは、工夫を凝らした収蔵品展を実施したほか、ジャイアントルームなど当館の特徴的な機能を活かしながら、様々なアプローチで新たな視点から企画運営に取り組んだ。展覧会毎に実施したアンケート調査では、いずれの展覧会も7割から9割と観覧者から高い満足度を得ることができており、八戸地域のアーティストや文化芸術の理解促進につながっている。また、アートファーマープロジェクトには様々な参加者が集まり、活動を通した関係性を深めている。</p> <p>その一方で、観覧者が少ない展覧会があったほか、展示のコンセプトや内容に対して不満を持つ観覧者がいたことから、観覧者の満足度向上と合わせて、企画の意図をより深く理解してもらうなど、不満を減らすための取組も今後の課題である。また、展覧会関連プログラムの募集開始が遅れてしまうなど、周知する機会を逸してしまったことから事前に広報計画を立てて遂行する必要がある。</p> <p>以上のことから、展覧会やプロジェクトによって「アートを通した学びの拠点をつくる」ことや、「市民が多様な考え方や価値観を認め合うことができる」ことは達成できているものの、一部の観覧者(市民)からの不満も存在することから、「概ね達成できている」と評価できる。</p>	

中間アウトカム	評価
<ul style="list-style-type: none"> ■新しい活動や価値が生まれる土壌をつくる ・企業や団体との協働により「アートのみち」が実現する ・他者と出会い、何かすることが面白いと思うようになる ・自分の考えや感覚を表現できるようになる 	概ね達成できている
<p>【評価理由】</p> <p>美術団体・関係団体などの共創パートナーと連携した共創企画の実施により、「アートのまち」づくりにつながっている。その一方で、共創企画を行う共創パートナーが限られているため、幅広く共創パートナーを募る必要がある。</p> <p>また、学校連携事業では、学校教員と美術館職員のつながりが深まっており、授業での美術館の活用が進み、教員の発意による朝鑑賞に関するファシリテーター研修を行う学校が出てくるなどしている。一方、大学・高専連携事業では、美術館の専門性と大学・高専が持つ専門性を活かした多様なワークショップにおいて創作活動を通じて児童の想像力や創造力が養われるなど、アートの価値観や多様性の理解につながっている。</p> <p>ほかにも、アートファーマープロジェクトでは、参加者の自主的な活動も生まれはじめており、美術館を活用した自己表現が見られている。</p> <p>以上のことから、様々なプロジェクトによって「新しい活動や価値が生まれる土壌をつくる」ことは達成できているものの、そこに限られる共創パートナー・アートファーマー(市民)が限られていることから、「概ね達成できている」と評価できる。</p>	

中間アウトカム	評価
<ul style="list-style-type: none"> ■クリエイティブ人材が集まる環境をつくる ・創造性を刺激する環境ができる 	概ね達成できている
<p>【評価理由】</p> <p>アートファーマープロジェクトでは、アートファーマーの活動環境の整備に努めた結果、アーティストと一緒に創作活動を行ったり、世代を超えた人のつながりができている。アンケート調査では、「創造性を刺激されるような体験があった」と回答した参加者は9割を超えており、創造性を刺激する環境づくりにつながっている。</p> <p>その一方で、初期参加者の中にはほとんど活動していない人がいるなど、新規参加者が増えるような広報の方法や参加しやすい仕組みを検討する必要がある。また、アートファーマーが自主的に企画・発信できるような仕組みの整備を検討する必要がある。</p> <p>以上のことから、アートファーマープロジェクトによって「クリエイティブ人材が集まる環境をつくる」ことは達成できているものの、そこに限られるアートファーマー(市民)が限られていることと、自主的な活動を活発化させる仕組みが十分ではないことから、「概ね達成できている」と評価できる。</p>	

②総合評価

リニューアルオープン後に実施してきた各事業によって、中期運営計画で定めた中間アウトカムは、いずれも「概ね達成できている」と評価できた。

展覧会＋プロジェクトでは、ジャイアントルームなど当館の特徴的な機能を活かしながら、様々なアプローチで新たな視点から企画運営に取り組んだ結果、観覧者からの高い満足度を得ることができた。また、展覧会と並行して行われるアートファーマープロジェクトでも、活動環境の整備や、アーティストとの創作活動を実施した結果、様々な参加者が集まり、世代を超えた人のつながりや、美術館を活用した自己表現が生まれはじめている。今後は、それらの事業の企画意図に対して、より深い市民の理解を得るための試みが必要とされると考えられる。

さらに、共創パートナーとの共創企画や学校連携事業、大学・高専連携事業によって、美術団体や関係団体、学校教員、児童・生徒・学生などの市民との共創を生み出し、地域の資源を活用する取組を実施することができた。一方で、それらの事業とアートファーマープロジェクトにおいては、今後はより一層、関係する市民の拡大につとめるための試みが必要とされると考えられる。

(3)今後の展望について

①事業活動の課題

○魅力的な展覧会などの実施

まだ来館したことのない市民も多くいるため、多様なジャンルの展覧会の開催に加え、アート以外の分野との連携を深めるとともに、ジャイアントルームの機能を活かした事業を展開することで、作品鑑賞の幅を広げ、観覧者の満足度をさらに向上させるとともに、美術に関心のない層へのアプローチを強化していく必要がある。

○プロジェクトの常設展示・コレクション化

一過性のプロジェクトに対する市民の理解を深めるため、人の活動が見えにくいプロジェクトで制作された「もの」や「こと」を、写真や映像などを通して再演・再現するアーカイブの整備や、アーティストが関与して生み出した作品のコレクション化に取り組む必要がある。

○学校連携事業のさらなる推進

学校連携ラボの利活用の促進を進めながら、児童・生徒が美術館を訪れ、作品や活動に触れる機会を増やすためのアプローチを積極的に進めていく必要がある。

○大学・高専連携事業のさらなる推進

大学や高専の専門性と美術館のアートの専門性を融合させた「アートの学び」を通して、人材育成や地域経済の活性化につなげるほか、子育て世代を含む多様な来館者のアクセシビリティ向上に向けた事業の充実を図る必要がある。

○アートファーマーや共創パートナーを中心とした、市民による多様な芸術文化活動創出に向けた仕組みの構築

参加するアートファーマーの固定化や自主的な活動への発展が十分でなく、共創企画を行う共創パートナーが限られていることから、より多様な市民や団体の参加を促進するほか、アートファーマーが自ら企画・発信できる仕組みの整備や、新たな共創パートナーとの連携を図る必要がある。

○戦略的な広報

展覧会やプロジェクトの開催周知、アートファーマーや共創パートナーの募集などにあたっては周知不足の面があったことから、広報手段、ターゲット、時期、内容など、広報計画を立て、効率的かつ効果的な情報発信に取り組む必要がある。

②評価の課題

今期中期運営計画は八戸市美術館がリニューアルオープン前に策定したこともあり、アクティビティやアウトプット、中間・最終アウトカムが抽象的な内容であったほか、直接アウトカムが設定されていなかったことから、スタッフのワークショップで作成したロジックモデルを当てはめることで、具体的なアウトカムを把握することができ、また、アウトカムを測定するために適切な評価指標の見通しが立った。

次期中期運営計画の策定においては、すべての基本となるビジョン「種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館 ～出会いと学びのアートファーム～」は踏襲するものの、ミッションとなる社会的インパクト(最終アウトカム)については、より具体的な内容となるように再検討を行い、ロジックモデルをあらためて構築していく必要がある。また、新たなロジックモデルに合わせて、評価指標や測定方法(アンケート設問)についても見直しを行うこととする。

8 おわりに

今回の評価にあたっては、当館の主要な活動である「展覧会＋プロジェクト」、「学校連携」、「アートファーマープロジェクト」について、ロジックモデルを使ったプログラム評価の手法を用いました。美術館分野ではプログラム評価の導入が普及していないなか、事業評価アドバイザーによる支援や、八戸市美術館運営協議会の有識者からの貴重なご意見・ご助言をいただきながら作業を進めてきました。その結果、中期運営計画で定めた中間アウトカムは、いずれも「概ね達成できている」と評価でき、「種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館」という当館が掲げるビジョンの実現に向けた最初の一步を踏み出せたと考えています。

しかしながら、限られた人員や予算で事業を展開するなか、多様な展覧会の実施やプロジェクトのアーカイブ化のほか、学校連携の推進、アートファーマーや共創パートナーを中心とした市民発の芸術活動支援や戦略的広報など、十分に組み立てていない課題があることも見えてきました。

また、中期運営計画がリニューアルオープン前に策定されたこともあり、戦略目標やアウトカムが抽象的であったり、評価指標の設定が不十分であるなど、評価の課題も明らかになりました。

今後は、今回の評価で得られた成果と課題を踏まえ、次期中期運営計画をより効果的かつ具体的なものに見直し、事業を着実に推進していきます。

今後も、地域の文化と芸術の拠点として、市民とともに新たな価値を創出し、地域社会の心の豊かさの充実に取り組んでまいります。

八戸市美術館
館長 佐藤 慎也